

海外ジャーナリストが見た ～悠仁さまご誕生報道～

皇室は社会のあらゆる層に影響する模範。近代化の機会逸した

ベン・ヒルズ



42年オーストラリア生まれ。数々のジャーナリスト賞を受賞。豪メディアの東京特派員を経て帰国、フリージャーナリストに。11月に豪で、雅子妃の伝記を出版する。

紀子さまに男児が生まれたことはまことにめでたいが、このことが皇位継承という難局に直面し、時代遅れの皇室典範を近代化するチャンスを一世代奪ってしまった。

男性だけが君臨に適しているという封建的な考え方にしがみついているのは、世界中のどこを見ても日本だけだ。しかも皇室が示す模範は、社会のあらゆる層にじわじわと影響するから事は重大である。

世界経済フォーラムの男女平等に関する国別のランキングでは、日本は58か国の中で38番目だ。しかも、コロンビア、ウルグアイ、ブルガリアにも遅れをとっている。

平均で見ると、日本の女性は、男性の賃金の3分の2しか得られない上に、専門職、経営者、政権では、全体の15%しか地位を占めていない。アメリカ

の半分である。

驚くことに痴漢経験者がワイドショーで地下鉄で女性にみだらなことをする的方法についてコメントしたりしているということもあるのだから、日本という国はいま、ある意味悲しい状況に陥っているといえる。現代的なテクノロジーが進んでいるのに、社会的には後進国と思われるのは仕方ないといえない。

いまの皇室典範は日本のイメージ戦略に合わず、継承危機はすぐに

ケン・ルオフ



66年アメリカ生まれ。ハーバード大卒。04年、著書「国民の天皇」で大佛次郎論壇賞を受賞。ポートランド州立大助教授（現代日本史）、同日本センター長。

今回生まれてきた赤ちゃんが女兒であれば、皇室典範改正に拍車がかかることになったはずだ。私は性別に関係なく、改正されることを望んでいる。

まず、現代の日本は自国の国際的なイメージを非常に気にしている。さらに皇室が、唯一残っている象徴的な日本のイメージであることを考えると、皇位を継承できるのが、男系男子のみというのは、どうみても時代のイメージ

ジにそぐわない。その価値観がいまの時代にそぐわないことは誰が見ても明らかである。

ベルギー、イギリス、スカンジナビア諸国のすべての王室が女王を認めていることを考えると、日本が女帝を認めないのは、日本が、いまだに男性優位主義であるといっているようなものだ。雅子妃に関していえば、親王の誕生でプレッシャーから解放されたかもしれないが、別の観点から見れば、ここまで自分を犠牲にして皇室にはいったのに男児を産むのに失敗し、その役割を紀子妃が果たしたとなると、自分の人生は何だったのかと疑問を抱かざるを得ないだろう。

いまの皇室典範は日本のためになっていない。だから、ある意味で紀子妃が女兒を出産されていけば、改正を余儀なくされる絶好のチャンスだったのだ。

私は歴史を研究することを専門にしているが、皇室典範が時代遅れであることは明らかである。平民であった美智子さまを皇室に入れても、2代目で皇位継承危機になったくらいだから、いずれ継承危機になることは目に見えている。いまはまるで綱渡り状態だ。